日曜 AM 9:00～9:30（フジテレビ系列）放送

ゲゲゲの鬼太郎

きたろう

第104話

「恐怖！吸血妖怪の島」

 フジテレビ

制作 読売広告社



東　映

企画	原田冬彦（フジテレビ） 木村京太郎（読売広告社）
プロデューサー	蛭田成一
製作担当	岡田将介
原作	水木しげる （コミックボンボン テレビマガジン たのしい幼稚園 おともだち）連載 （講談社）
シリーズディレクター	西尾大介
脚本	矢島大輔
演出	川田武範
音楽	和田薫
キャラクターデザイン	荒木伸吾
総作画監督	姫野美智
美術デザイン	浦田又治

作画監督	
美術	
原画	
仕上	
撮影	
編集	片桐公一
録音	今関種吉
音響効果	今野康之
選曲	西川耕祐
記録	
製作進行	坂本憲生知
演出助手	

【オープニング】

ゲゲゲの鬼太郎

作詞／水木しげる
作曲／いずみたく
唄・編曲／憂歌団
（wea japan）

ゲッゲッ　ゲゲゲのゲー
朝(あさ)は寝床(ねどこ)で　グーグーグー
たのしいな　たのしいな
おばけにゃ　学校(がっこう)もしけんも
なんにもない
ゲッゲッ　ゲゲゲのゲー
みんなで歌(うた)おう　ゲゲゲのゲー

ゲッゲッ　ゲゲゲのゲー
昼(ひる)はのんびり　お散歩(さんぽ)だ
たのしいな　たのしいな
おばけにゃ　会社(かいしゃ)も仕事(しごと)も
なんにもない
ゲッゲッ　ゲゲゲのゲー
みんなで歌(うた)おう　ゲゲゲのゲー

ゲッゲッ　ゲゲゲのゲー
夜(よる)は墓場(はかば)で　運動会(うんどうかい)
たのしいな　たのしいな
おばけは　死(し)なない　病気(びょうき)も
なんにもない
ゲッゲッ　ゲゲゲのゲー
みんなで歌(うた)おう　ゲゲゲのゲー

【エンディング】

イヤンなっちゃう節

作詞／森　雪之丞
作曲／岡本　朗
編曲／憂歌団 with HAKABA'S
唄／憂歌団
(wea japan)

★ イヤンなっちゃうオバケ　丑三つ時も
街はネオンが　まぶしくて
不良ぶってもアタシ　恥ずかしかり屋
顔が見えると　おどかせない

遊園地で　バイトする
妖怪に　愛をちょうだい
カネがなきゃ　夢もない
この街に　暮らすオバケもつらい

ビックラこいた！　墓場の横に
カラオケボックス　建っちゃった
ビックラこいた！　騒がしすぎて
オバケにゃホント　住みにくい時代さ

★★ イヤンなっちゃうオバケ　人間達が
機械みたいに　歩いてる
困っちゃったよアタシ　憂鬱な顔の
人はやっぱり　おどかせない

空は青く　水清く
妖怪は　怖くなくちゃ
昔から　続いてる
この星の　バランスが崩れちゃう

ビックラこいた！　コギャルの群が
アタシをけとばし　行っちゃった
ビックラこいた！　この世の中は
オバケにだって　怖いモノばかりさ

ビックラこいた！　鎮守の森が
雨に打たれたら　死んじゃった
ビックラこいた！　この世の中は
オバケにだって　怖いモノばかりさ

登場キャラクター

役名	摘要	声の出演者
鬼太郎		松岡洋子
目玉の親父		田の中勇
○		
砂かけ婆		山本圭子
子泣き爺		塩屋浩三
一反木綿		龍田直樹
猫娘		西村ちなみ
塗り壁		龍田直樹
ねずみ男		千葉繁
○		
ぬらりひょん		

朱の盆	○	吸血樹	ランスビィル	ペナンガラン	アササボンサン	○	その他					

1

吸血島・夜

バサバサバサ、コウモリが飛び去る。

二つの影（ぬらりひょん、朱の盆）。

眠っている吸血樹をみあげ。

ぬらり「見ろ朱の盆。これが幻の吸血樹だ」

朱の盆「吸血樹？　強いんですか？」

ぬらり「ああ鬼太郎なんぞは、ギタギタだ」

朱の盆「本当ですか？　いつも強いと言って、負けてますけど」

頭パコン。

ぬらり「ああ、俺の出した偽の手紙でな……」

朱の盆「それに、鬼太郎は来るんですかね」

ぬらりひょん、顔を見せる。

ぬらり「とうとう鬼太郎を退治して、ワシが妖怪世界を握る事ができる」

○テロップ・サブタイトル【決戦・吸血島】

2

海上・朝・吸血島が見えてくる

雲がかかり晴れることのない不気味な島。

カラスヘリコプターで向かう鬼太郎。

鬼太郎「あれが手紙にあった吸血島か……」

3

吸血島

——に降りる鬼太郎。

ジャングルの中に、やってくる人影。

マントに包まれた老婆。顔が見えない。

老婆（ぬらり）「鬼太郎さんですね」

鬼太郎「手紙をくれたのは貴方ですね」

老　婆「はい。大変なことが起こりまして……まあ、聞いて下され……」

老婆ジャングルの南国風の家に案内する。

4

南国風の家

家に上がってくる鬼太郎。老婆。

鬼太郎「それで……吸血樹はどこに？」

老婆、ジュースを持ってくる。

老　婆「ま、お一ついかがですかな」

鬼太郎「ありがとうございます」

飲み干す。

鬼太郎「変わった味ですね」

老　婆「サボテンのジュースです」

鬼太郎「サボテンの……？　ウッ、グホッ」

苦しみ出す鬼太郎。

老　婆「フフフフ……」

マントを取る老婆、ぬらりひょん。

鬼太郎「……お前は……ぬらりひょん！」

ぬらり「この島に残っていた吸血樹が復活したのだ。お前を退治するのにこの機会を逃すことはないだろう。ええっ」

鬼太郎「ウグッ……」

ぬらり「毒サボテンから作った特製ジュースさ。どうだねお味は、痺れるようだろうフフフ」

5 鬼太郎目線

ぬらりの声がグワングワンと響いてくる。
空間が歪んでくる。ぬらりひょんがグロテスクな妖怪に見えてくる。

6 部屋

朱の盆もやってくる。
朱の盆「旨くいきましたね」
ぬらり「さあ、こいつを吸血樹に食わせちまうんだ。朱の盆運ぶんだ！」
朱の盆「ふわ――い！」

7 鬼太郎の目線

鬼太郎「くそう化け物め！　近づくな！　えーい！　髪の毛針！」

鬼太郎には近づいてくる朱の盆が、でかい妖怪に見える。

ババババババいきなりの毛針！

ぬらりと朱の盆に命中。

8 部屋

鬼太郎の毛針を不意打ちで食らう。

ぬらり「イテテテテテ退却」

朱の盆「不意打ちなんて卑怯だぞ」

逃げていく。

鬼太郎朦朧としている。

鬼太郎（ラリって）「まてぇ、化け物め」

部屋を出ていく。

9 鬼太郎の幻影の中

一面の怪しい妖怪の影が。

鬼太郎「正々堂々と……」

妖　怪「クワュカッカッカッ……」

鬼太郎「どこだ！　妖怪め！」

ババババ！　毛針幻影をすり抜ける。

鬼太郎「なに？　くそう！」

10

吸血樹のジャングル

逃げ出したぬらりと朱の盆それを見ている。

ぬらり「ハハハハ、鬼太郎。馬鹿なヤツ、幻影と戦っても勝ち目は無いぞ」

11

崖の上

幻影に飛びかかった鬼太郎。

鬼太郎「ぎゃあああああ」

踏み外し、海岸の崖から落ちる鬼太郎。

12 吸血樹のジャングル

朱の盆「あっ！」

ぬらり「お終いだ……鬼太郎。その下は吸血ナマコの海だ」

13 海岸

落ちる鬼太郎。そこに、吸血ナマコがじわじわと這い寄って、飲み込み出す。

鬼太郎意識を失う。

鬼太郎「ウグググググ」

その時、リモコン下駄がするりと抜け、飛び立つ。更に飲み込まれる鬼太郎。

ナマコ、黄色と黒に変わっていく。

14 吸血樹のジャングル

朱の盆「やられちゃったんですかね？　鬼太郎」
ぬらり「ハハハ……。あっけないものよ……それより早く鬼太郎の毛針を抜いてくれ！」
　朱の盆、ぬらりに刺さった鬼太郎の毛針を抜いている。
ぬらり「イテテ！　朱の盆丁寧にやらんか」
朱の盆「ほわーい。しかし、ぬらりひょん様あ、これで邪魔者もいなくなりましたね」
ぬらり「いたいと言っておろうが。……これでこの吸血樹が完全復活すれば……世界は俺のものだ……」
　のぞき込む朱の盆の目の前で、吸血樹の目玉がギロリ開く。
朱の盆「うわあ！　ぬらりひょんさまあ、きゅう、吸血樹がこっ、こっちを……」
ぬらり「おお、これは吸血樹、目が覚めたか。腹が減っておるだろう。待っておれ、たった今、ワシが鬼太郎をやっつけた。たっぷりと血を吸わせてやるからな。朱の盆！　海岸まで取りに行くぞ」
朱の盆「行くぞって、あの黄色と黒の縞々模様のナマコを取りに行くんですか？私嫌いですよ、あの色」

ぬらり「吸血樹を完全復活させるためだ……」

崖を降りていこうとするぬらりと朱の盆。

15 ゲゲゲの森

一反木綿、目玉、おばば、子泣き、妖怪バスから降りてくる。

目　玉「いやいや、妖怪組合の温泉旅行はいつもながら良いのう」

砂かけ「100歳は若返るわい」

子泣き「うーむ、見たところかわらんが……」

砂かけ「何か言うたか。子泣きの！」

子泣き「いやなにも……」

16 鬼太郎の家から

ねずみ男、猫娘、一反木綿。

猫　娘「大変よ！　鬼太郎が吸血島に一人で行っちゃったのよ」

砂かけ「吸血島じゃと」

目　玉「吸血樹や、亜細亜の吸血妖怪がウジョウジョしている島じゃ」
子泣き「そんなところになぜ」
ねずみ「島の人からの手紙が残っていたぜ」

そこに、下駄が飛び込んでくる。

目　玉「おお、リモコン下駄！」
子泣き「何があったんじゃ」

下駄、タップ。タップで伝える。

目　玉「なに鬼太郎がやられた⁉」
ねずみ「鬼太郎が？　んな馬鹿な！」
子泣き「吸血島に吸血樹が復活じゃと！」
一反木綿「大変でごわす。鬼太郎どんを助けに行くでごわす」

カタカタカタ、タップを繰り返す下駄。

目　玉「なに？」
砂かけ「ぬらりひょんの仕業と！」
子泣き「が……！」
目　玉「あいつ、性懲りもなく……」
猫　娘「親父さん！」

目　玉「よしみんな、吸血島へ！」
みんな「おお！」

17

吸血島海岸

崖を降りていくぬらり。後ろで双眼鏡で海の彼方を見る朱の盆。

朱の盆「待って下さい。何か来ます。ぬらりひょんさまあ」
ぬらり「なんだ。うるさい。急げ」
朱の盆「でも……ぬらりひょんさまあ」
ぬらり「うるさいと言っておろうが」
朱の盆「大変です！」

朱の盆、双眼鏡をぬらりに渡す。

ぬらり「なに？」

双眼鏡の視界の中に化け鯨に乗ったみんな、塗り壁が目立つ。

ぬらり「目玉の親父……化け鯨まで。まずいな。朱の盆、奴らより前に、鬼太郎を吸血樹に食わせるのだ。急ぐぞ！」

18

洋上・化け鯨

　　吸血島が見える。

猫　娘「吸血島よ！」

目　玉「リモコン下駄！　鬼太郎はどこじゃ！」

　　リモコン下駄、ピューン。

　　宙を飛んで振り返る。

目　玉「よーし、化け鯨頼んだぞ！」

　　化け鯨潮を噴く。

19

吸血樹

ぬらり「急げ朱の盆！」

　　その時、後ろで声。

ランス（声）「待て……そこの凸凹妖怪……」

　　ぬらり、朱の盆ギクッ！　振り返る。

　　そこに、ランスビィル・ペナンゲラン・アササボンサンが現れる。

ニヤニヤ笑っている。

○テロップ【ランスビィル・ペナンゲラン・アササボンサン】

ペナン「キュルキュル」
ぬらり「何だお前等……」
アササ「お前等とはご挨拶だな……。吸血樹さまの妖気を感じて飛んできたら……」
ランス「こんなとぼけた奴らが先に来ているとは」
朱の盆「とぼけた奴らですって！　ははは、ぬらりひょんさまがとぼけてるって、ははは！」
ぬらり「お前のことだろうが！」
アササ「ワシ等は吸血樹様の一番の部下、亜細亜の最強吸血妖怪三人衆だ」
ぬらり「吸血妖怪三人衆……」
ランス「ところでお前は誰だ……え？」
ぬらり「ワシを知らぬのか？　ワシが日本の妖怪の支配者、有名なぬらりひょんじゃ」
ランス「知ってるか？　しらねえよな」
アササ「いいや？　聞いたこともない」

首を振るペナンガラン。

ランス「まあいい、ところで吸血樹様はどうなさっておる」

ぬらり、ずるがしそうな目を光らせて、

ぬらり「おお、大変なんだ。吸血樹さまを狙う日本の妖怪が攻めて来るんじゃ。それでワシらは吸血樹様を守って……」

アササ「なんだと。本当か」

ぬらり「ああ、本当だ。日本の妖怪が大勢……」

ランス「日本の妖怪……、フン。血祭りにしてくれるわ」

ぬらり「あいつらです。強いですよ」

双眼鏡で示すぬらり。ランス達ニヤリ。

ランス「ふざけるな」

ぬらり「本当ですか」

アササ「我々を見くびるな。日本の妖怪ごとき一ひねりだ。待っていろ」

ランス達出て行く。吸血樹ケケケケケ。

朱の盆「ぬらりひょんさまあ、あいつら大丈夫ですかね」

ぬらり「ああ……、やられたら、その時は、その時だ……ふふふ」

20 海岸

下駄を先頭に上陸する一行。

猫娘の肩の目玉。下駄の案内。

目玉「よし、こっちじゃ。急ぐんじゃ」

猫娘「リモコン下駄。鬼太郎は大丈夫なんでしょうね」

下駄、リアクション無し。

猫娘「鬼太郎……」

下駄、タップで海岸を指す。ピュッと飛び立つ一反木綿。

一反木綿「親父どーん」

そこには黄色と黒の縞々ナマコ。

目玉「まさしく鬼太郎じゃ！」

砂かけ「鬼太郎！」

走るみんな。突然消える。

みんな「ワ――ッ！」

21 落とし穴

22

落とし穴

ドサンと落ちるみんな。

猫　娘「イテテテテ」

ねずみ男「誰だよこんな所に落とし穴作ったヤツは。オー痛てえ」

暗闇に光る6つの眼。

ペナン「クケケケケケケ」

ランス「お前達か……吸血樹様を邪魔しようというのは……。ふざけたことを……」

子泣き「なんだ!?」

頭の上から、チュウインガムの様なものがドローとねずみ男と猫娘にかかる。

猫　娘「ギャアアアアア——ッ!」

×　×（C・M）×　×

猫　娘「ギャアアアアアア――――ッ！」
ねずみ「な、なんだあ」
アササ「ヌワアア！」

アササボンサンが飛びついてくる。
ねずみ男逃げようとするが、ネバネバで猫娘とくっついてとれない。
グワーッ！　アササボンサンが噛みつく。

ねずみ男「助けてちょんまげ」

そこに、

塗り壁「ぬりかべー」

はじき飛ばされるアササボンサン。

ランス「こしゃくな！　食らえ」

続いて子泣きに噛みつこうと迫るランスビィル。牙がキラリ。

砂かけ「子泣き爺！　後ろじゃ」
子泣き「オギャアオギャア！」

石になった子泣きを食べたランスの歯が、

ランス「グワアアア！　いたいよう」

歯がボロボロ。

しかし、目玉の声。

目　玉「うわわあああああ」

みんなの目の前で、ペナンガランに飲み込まれる目玉の親父。

砂かけ「親父殿」

すかさず、塗り壁がペナンを捕まえる。

ペナン塗り壁に噛みつくが歯が立たない。

首根っこを捕まえられる。

形勢不利とみたランスビィルとアサボンサンは逃げていく。

ねずみ「まいったか！」

ペナンガランに呼びかける砂かけ。

砂かけ「親父殿！　生きておるか？　親父殿」

子泣き「大丈夫かのう」

猫　娘「ねえ、いずれにしても鬼太郎を助けましょう」

砂かけ「おお、そうじゃ。さすれば良い知恵も浮かぼう」

穴から出ていくみんな。

ケケケケと不気味に笑う吸血樹が。
ぬらりひょんと何か相談している。
そこにランスビィルとアササボンサンがほうほうの体で逃げてくる。

ランス「おお、吸血樹さま……」

アササ「吸血樹様お待ち下さい。あいつら意外と強くて……。次はお任せ下さい」

走る二人の足元を、朱の盆が足で払う。
と、吸血樹にバランスを崩して突撃するランスビィルとアササボンサン。

ランス「アワワワワワ！」

その背中をぬらりひょんが杖で押す。
吸血樹の眼が大きく輝く。触手がランスビィルとアササボンサンを捕らえる。

アササ「な、なんだ。たっ、助けてくれ！」

吸血樹ケケケケ言いながら吸血する。
干からびていくランスビィルとアササボンサン。吸血樹巨大化。

アササ「た、助けてくれ……」

ぬらり「無能なヤツめ。吸血樹さまは腹ぺこで、もう我慢ができないそうだ」
ランス「裏切ったな」
ぬらり「いや、初めからのワシの計画だ……」
吸血樹「ケケケケケ」

ミイラになるランスとアササ。

ぬらり「どうですか？　充分足りましたか……」

不満そうな吸血樹。イライラ！

ぬらり「はあ……。それは困りましたな……」

いらついている吸血樹。

ぬらり「かわいい奴なんだが、この際だ……」

朱の盆を見る、ぬらり。朱の盆ドキッ！

朱の盆「私はだめよ。だめですよう。生まれてこの方、お医者さんにも血を採られたことが無いんですから……」
ぬらり「朱の盆や、半分だけ……な、半分……」
朱の盆「そう言う問題では……」

すでに、吸血樹の触手は朱の盆に、半分干からびていく朱の盆……

朱の盆「ぬらりひょんさまあ、献血手帳はちゃんと下さいよ……」

最強モードの吸血樹。

24

海岸線の海

まだ動く吸血ナマコになった鬼太郎をこわごわ手にする猫娘。

猫　娘「鬼太郎！　大丈夫鬼太郎」

子泣き「妖怪ナマコに妖怪血液を吸われちまったんだ」

その時、塗り壁に捕まれてる、ペナンガランから目玉の親父の声。

目　玉「砂かけの、聞こえるか！」

砂かけ「目玉の親父どの、無事なのか」

目　玉「当たり前じゃ。それよりワシのいるこいつの腹の中は妖怪血液だらけじゃ。どこぞで妖怪を襲ったんじゃろう。おばば、こいつの妖怪血液を吸血ナマコに吸わせるんじゃ。パンパンになるまで、吸わせてから皆の妖力を鬼太郎に送るんじゃ」

砂かけ「さすれば、鬼太郎は自らで復活する」

猫　娘「よーし、わかったわ」

猫娘、ペナンンに吸血ナマコを押し込む。

パンパンになる吸血ナマコ。
妖力を送る砂かけ、子泣き。
砂かけ「そうれ」
子泣き「あらよ」
パンパンになる吸血ナマコ。妖力で光る。
そして、ヘニョヘニョと鬼太郎が出てくる。そして完全復活。最後に口
から飛び出す目玉。
目　玉「鬼太郎」
鬼太郎「父さん、来てくれたんですね？」
目　玉「当たり前じゃ！」
鬼太郎「へへ」
砂かけ「親父殿、鬼太郎。吸血樹のところへ」
目　玉「よーし、吸血樹を退治する！」

25 吸血樹のジャングル

鬼太郎達進む。バサバサバサバサ！

吸血コウモリの群れが襲ってくる。

鬼太郎「うわあ！」

コウモリがはけると、吸血樹がぬらりと朱の盆を従えている。吸血樹、不気味な笑いと共に、体中に花芽をつけだす。

ねずみ男「なんだよありゃ……」

目　玉「あれが。吸血樹じゃ！」

ぬらり「鬼太郎。やられたはずでは？　まあいい、すでにもう遅いわ。吸血樹は花を付け始めた」

子泣き「吸血樹の花じゃと！」

花咲き出す。

目　玉「大変じゃ。あれが実を結んで種を播いたら、島中が吸血樹に覆われてしまう！」

ぬらり「ほお、さすがに良く知っているな」

鬼太郎「ぬらりひょん！　止めるんだ」

ぬらり「うるさい……。吸血樹に食われてしまえ」

突然吸血コウモリが襲いかかってくる。

吸血樹「ケケケケケケケ」

同時に吸血樹、幾つも触手を伸ばし迫る。

砂かけ「やめんか、そーれ」

砂をまく。猫娘のお尻に触手を伸ばす。

猫　娘「このう、ギ――――ッ！」

噛みつく。ねずみ男にも、

ねずみ男「俺さまだって武器はあんのよ」

ブウッ。……しかし効果無し。

ねずみ男「おろっ?!　植物には効かねえの」

鬼太郎、オカリナ鞭で防戦しているが、

鬼太郎「よーし、髪の毛針！」

ババババ！　吸血樹の眼に向かって毛針進む！　が、コウモリが割り込んでくる。

キキッ！　コウモリが落ちる。

吸血樹、触手で鬼太郎の両手を掴む。

鬼太郎「しまった！」

吸血樹「ケケケケケケ……」

取り込まれそうになる鬼太郎。

ババババババ！　毛針を出すが、コウモリが、

鬼太郎「ヨーシ！」

両手を捕まれ、逆にそれを軸にして、オーバーヘッド！　キック！

リモコン下駄最強のスピードで、吸血樹の眼に突き進む。

吸血樹「ウギャギャギャギャギャ」

ぶっ倒れ、もがき苦しむ吸血樹。

猫　娘「やったあ！」

ねずみ男「いいぞ鬼太郎。ちょろいもんよ」

ぬらり「……くううう……」

鬼太郎「諦めろぬらりひょん！　吸血樹もこれでお終いだ」

ぬらり「あまいぞ鬼太郎！」

ぬらりひょん、手にしていた松明を吸血樹に投げる。

鬼太郎「なに？」

目　玉「……」

ぬらり、ニヤリとし吸血樹に火をつける。

砂かけ「あやつ、血迷ったか！」

子泣き「ワシ等を吸血樹と共に焼き払う気じゃろう」

吸血樹、メラメラと燃え上がる。

ぬらり「ハッハハハ！　もう遅いわ」

ねずみ男「なーに負け惜しみ言っているんだ。ばーか！」

その時、火だるまの吸血樹からパンパンパンパン！

吸血樹の種が鉄砲のように飛び出す。

猫　娘「なによこれ!?」

砂かけ「これは種！」

ぬらり「そう、吸血樹の種だ」

目　玉「……そうじゃ。吸血樹は火事にあって初めて種をまく性質があったんじゃ」

ぬらり「フフフフ、今頃思い出したか」

地面から、木の芽が無数生えてくる。

鬼太郎「……」

ねずみ男「なんだあ！」

ぬらり「そうら、始まった……蘇れ吸血樹よ！」

木の芽、ドンドンでかくなる。

木の芽、小さな足の生えた吸血樹に成長していく。

吸血樹達「きゃっほほ、きゃっほほ」

身の丈にまで成長。

吸血樹達「きゃっほほ、きゃっほほ」

鬼太郎「何だ！」

鬼太郎取り囲まれる。

ぬらり「そいつらを血祭りに上げろ」

飛びかかってくる吸血樹達。

吸血樹達「きゃっほほ、きゃっほほ」

鬼太郎オカリナ鞭。ビュン！

鞭が、吸血樹達を切り裂く。大根を切るようにスパスパ切れる。

猫　娘「やったあ！　さっすが鬼太郎」

しかし、二つに切れた吸血樹……。

吸血樹達「きゃっほほ、きゃっほほ」

それぞれが吸血樹になる。

鬼太郎「リモコン下駄！」

下駄は、次々に吸血樹をなぎ倒していく。

パコン、パコン！　吸血樹を粉々。

粉々の吸血樹、それぞれ、吸血樹になる。

鬼太郎「父さん。駄目です。吸血樹は攻撃を受ける度に増えていきます」
目　玉「うーむどうしたら」
　　　吸血樹に取り囲まれる。
吸血樹達「きゃっほほ、きゃっほほ」
　　　鬼太郎達に向かって勝ち誇るぬらり。
ぬらり「ハハハハハ、鬼太郎。どうだ。今度ばかりは手の出しようがないだろう」
　　　そのぬらりの背後に突然吸血樹。
ぬらり「なに！」
吸血樹達「きゃほ！　きゃっほほ！」
ぬらり「なんだと！　吸血樹！　お前をここまでしたのはワシだぞ！」
吸血樹「キャッホッホ」
　　　襲ってくる。
　　　鬼太郎タチ、木の上に逃げる。
　　　枝が、吸血樹になる。
鬼太郎「ぐわああ」
　　　おばば、猫娘、ねずみ男、塗り壁の上。
　　　子泣き、石になる。

26

崖の上

ぬらりと朱の盆に迫る吸血樹。後ろは崖。下は海。

朱の盆「来るな！　来るな！　これ以上僕の血を吸わないで。ぐわあ触るなよ！　ってばあ」

ぬらりひょん仕込み杖でシャキン！

真っ二つの吸血樹。再びにょきにょき。

朱の盆吸血樹に絡まれ、足を滑らす。

朱の盆「うわあああ。ぬらりひょんさまあ」

朱の盆、ぬらりひょんに掴まり、

朱の盆「たすけてえ！」

ぬらり「や、止めろ！　ぐわああ」

ぬらりひょん、朱の盆、吸血樹二体。

がけ下に落ちていく。

27

海

海に落ちた吸血樹はシュウシュウと音を立て溶けていく。

吸血樹「きゃっほっほ……ドロドロ……」

朱の盆「ぬらりひょんさまあ、私泳げないんです」

ぬらりひょんに掴まる朱の盆。

ぬらり「馬鹿者手を離せ。ワシまで沈むじゃないか」

と言いつつ沈む。

28

吸血樹のジャングル

それを見ていて、目玉「！」さらに、

目　玉「一反木綿！」

一反木綿「あいよ」

やってきた一反木綿に飛び乗る目玉

目　玉「みんな！　ワシについてこい！」

崖に向かって飛び出す一反木綿。

砂かけ「親父どの。しかし、そっちは崖じゃ……」

目　玉「いいから早くするんじゃ」
鬼太郎「はい。父さん。よーし、みんなこっちだ」
　駆けだす。
猫　娘「どうする気かしら？」
子泣き「考えがあるんじゃろう」
目　玉「とにかく急げ」
　吸血樹達集まって追いかけてくる。
ねずみ男「おいおい、親父、みんなをおとりにして自分だけ逃げるなんてんじゃねえだろうな！　アイタ！」
　吸血樹に尻を噛みつかれるねずみ男。
　鬼太郎が、オカリナ鞭で真っ二つにする。
　が、二倍になって追いかけてくる吸血樹。
ねずみ男「頼むよぉ……」

29　上空

　上から見ると、鬼太郎達は小さな岬のようなところに逃げている。

30

岬

みんな走って逃げる。が、崖まで来てしまった。一反木綿は海の上空に。

猫　娘「この先はもう崖よ！」

砂かけ「逃げ場がないわ」

ねずみ男「親父、やっぱり自分だけ逃げたんだぜ」

子泣き「お前じゃあるまいし」

吸血樹「キャッホホ！」

じりじり迫る吸血樹。

塗り壁「ぬりかべえ」

前にたちはだかるが、バーッターン！

吸血樹「キャッホホ！」

ねずみ男「助けてよお」

鬼太郎「父さん！」

崖を背にした鬼太郎の足は半分落ちかけている。踏んだ石が崩れ落ちる。

鬼太郎「うあああ」

吸血樹「キャッホホ！」

　一斉に飛びかかる吸血樹達。

猫　娘「キャ――――アッ！」

　その時、背後の海が盛り上がる。

　一反木綿の先導に、化け鯨が肋骨に水をたたえ、ズズズズズズーン！

　海からジャンプしてくる。

鬼太郎「化け鯨！」

　驚きの吸血樹。化け鯨が上空を飛び越え、ザバアアアア――――ン！

　大量の海水が吸血樹に降り注ぐ。

　シュウシュウシュウ溶けていく。

　もちろんみんなずぶぬれ。

子泣き「何と吸血樹が溶けていく」

目　玉「どうじゃ！　あやつらは、海水に弱い！　ぬらりひょんと海に落ちたヤツが海水に溶けていくのを見て気づいたんじゃ！」

　ザップーン！　バシャーン！　シュウシュウ水浸しの岬。

ねずみ「さすが親父だぜ」

猫　娘「さっきまで疑ってたのは誰よ」

31

朝日の中の吸血島・のどか

鬼太郎「終わりましたね」
目　玉「ああ、これで吸血樹はおそらくもう出てきまい」
砂かけ「ついでに、ぬらりひょんも海の藻屑じゃろう」

――インサート・流れ藻に絡まっている、ぬらりと朱の盆。

朱の盆「ぬらりひょんさまあ、塩水の飲み過ぎで、今度はぶよぶよです」
ぬらり「どうせ只だ。もっと飲め！」

ぬらり、朱の盆の顔を水につける。

朱の盆「あぶぶ……ごっくん」

終わり

